

収 支 決 算 書

収入の部

款	項	目	金額 (円)	内 訳 (節内容を記載すること)
県支出金	県補助金	教育費 県補助金	408,000	社会教育費補助金 408,000
市 税	市民税	個人市民税	410,118	現年課税分
計			818,118	

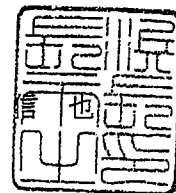
支出の部

款	項	目	金額 (円)	内 訳 (節内容を記載すること)
教育費	教育総務費	教育振興費	408,274	報償費 382,674 雑役務費 25,600
民生費	社会福祉費	■■■■■ ■■■■■	409,844	報償費 45,933 旅費 0 消耗品費 80,075 印刷製本費 27,300 保険料 9,336 使用料及び賃借料 247,200
計			818,118	

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成20年 3月 28日

長浜市長 川 島



事業実施計算書

市町名 長浜市 [教育指導課分]

区分	費目	金額	積算の基礎	
補助対象経費	報償費	382,674	〇〇〇事業 $2,000円 \times 20回 \times 5名 = 200,000円$ 〇〇〇事業 $(3000円 + 92円) \times 7 = 21,644円$ $(1000円 + 30円) \times 1 = 1,030円$ $3,000円 \times 10名 = 30,000円$ 〇〇〇事業 $20,000円 \times 5名 = 100,000円$ $30,000円 \times 1回 = 30,000円$	
	旅費	0		
	消耗品費	0		
	印刷製本費			
	通信運搬費			
	保険料	0		
	雑役務費	0		
	使用料及び賃借料	25,600	〇〇〇事業 〇〇〇賃借料 25,600円	
	合計 (A)	408,274		
			[補助金額 (A)×1/2]	[204 千円]

注) 「積算の基礎」欄は可能な限り会議・説明会等の事業区分毎に単価や員数等を用いた計算式を記載すること。なお、実施施設数が複数の場合は、実施施設毎に作成し、費目毎の合計額を本様式に計上した総括表を作成すること。

事業実施計算書

市町長浜市

区分	費目	金額	積算の基礎
		円	円
補助対象経費	報償費	45,933	[] : 講師謝礼 6,333 人権学習講座: 講師謝礼 @10,000×3回=30,000 託児業務謝礼 @800×12時間・人 =9,600
	旅費	0	
	補消耗品費	80,075	[] : 紙・ファイル等 30,514 教材(工作)費 25,275 教育情報誌「[]」および 24,286 訪宅教育相談「[]」
	印刷製本費	27,300	人権学習講座: チラシ作成 27,300
	通信運搬費	0	
	保険料	9,336	体験交流活動: デイキャンプ @124×54人= 6,696 スキー教室 @120×22人=2,640
	雑役務費	0	
	使用料及び賃借料	247,200	体験交流活動: デイキャンプ 施設使用料 18,200 バス借用料 @42,000×1台 体験交流活動: スキー教室 職員(旅費支給なし) @12,000×3人=36,000 指導者(旅費支給なし) @12,000×4人=48,000 子ども(参加者負担金 @8,000徴収) (@10,000-@8,000)×20人=40,000 バス借上料 @63,000×1台
	合計 (A)	409,844	

[補助金額 (A)×1/2]

[204千円]

注) 「積算の基礎」欄は可能な限り会議・説明会等の事業区分毎に単価や員数等を用いた計算式を記載すること。なお、実施施設数が複数の場合は、実施施設毎に作成し、費目毎の合計額を本様式に計上した総括表を作成すること。

事業の内容

名 称	教育情報誌「 XXXXXXXXXX 」による啓発	訪宅教育相談「 XXXXXXXXXX 」	
対 象	XXXXXXXXXX 全戸	XXXXXXXXXX 1年生児童保護者	
内 容 (テーマ)	<p>(保護者向けに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てについての情報提供 ・地域に対しての啓発 ・生活習慣や学習習慣が身につく話を提供。 <p>(生徒・児童用に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に響く言葉を伝える。 ・生徒、児童のやる気を引き起こさせる詩をのせる。 	<p>○新入生児童の家庭訪問を学期ごとに最低1回実施し、保護者との対話と交流から、教育課題の把握に努めるとともに、子育てに関する悩みや疑問等の解消に向けて関係機関とも連携を取りながら、適切な相談や支援を行う。</p> <p>○子育てや教育全般に関わる情報誌「XXXXXXXXXX」を発行し、保護者らの子育てに関する意識の高揚を図り家庭教育力の向上に資する。</p>	
参加者 (うち児童生徒数)	延べ約1500戸 (XXXXXXXXXX 人)	延べ約100戸 (延べ約100人)	
実施場所	年24回発行・全戸回覧	各家庭、 XXXXXXXXXX	
開催期間	平成19年 4月 ～ 平成20年 3月	平成19年 4月 ～ 平成20年 3月 (相談は随時受付)	
開催時間	延べ 時間	延べ約50時間	
事業実施 による 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習習慣の確立と学習意欲の向上 ・児童生徒の交流促進 ・親子の体験活動を通じての家庭教育力の向上 ・地域の人々の教育に関する意識の高まりと広がり ・保護者・地域との連携、交流の環境づくり ・共に学び共に語り合える保護者のネットワークづくり ・地域、保護者、XXXXXXXXXXおよび学校とも連携しながら、さまざまな教育上の課題への早期対応・早期解決 		

※ 1市町村において複数の施設で実施する場合は施設毎に作成のこと
 ※ 事業実施計算書は別紙共通様式により提出すること

事業の内容

名 称	██████████	体験交流活動	人権学習連続講座
対 象	小学校1・2・3・4年生 中学校3年生・保護者	小学校区児童とその保護者	全市民
内 容 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力補充のための基礎的な学習 ・工作などの造形活動 ・本に親しむ活動 ・体力向上・レクリエーション活動 ・パソコンでの学習 ・親子体験活動等の集団活動 ☆広報誌の発行 活動の取り組みとともに教育に関する各種の話題提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒のリーダー性を養うとともに、団体活動を通じての交流促進の場とする。 ○親子でふれあい、学ぶ場とし地域の教育力向上に資する。 <ul style="list-style-type: none"> ・デイキャンプ ・スキー教室 ・スポーツ体験 ・各種レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題に関する講演会等 ○一つの共通テーマのもと視点を交え、3週連続で3回の講座を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の子育て ・学童期の子育て ・青少年問題
参加者 (うち児童生徒数)	延べ約1300人 (延べ約1200人)	延べ約120人 (延べ約100人)	延べ約200人 ()人
実施場所	██████████ およびその周辺	██████████ キャンプ場、 スキー場等	██████████
開催期間	平成19年 5月 ～ 平成20年 3月	平成19年 7月 ～ 平成20年 2月	平成19年10月
開催時間	延べ約150時間	延べ約36時間	延べ約6時間
事業実施 による 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学習習慣の確立と学習意欲の向上 ・児童生徒の交流促進 ・親子の体験活動を通じての家庭教育力の向上 ・地域の人々の教育に関する意識の高まりと広がり ・保護者・地域との連携、交流の環境づくり ・共に学び共に語り合える保護者のネットワークづくり ・地域、保護者、██████████ および学校とも連携しながら、さまざまな教育上の課題への早期対応・早期解決 		

※ 1市町村において複数の施設で実施する場合は施設毎に作成のこと
 ※ 事業実施計算書は別紙共通様式により提出すること

<成果と課題>

- ・対象地域を拡大して実施している[]だが、[]の参加者が少ない。また、教育的な課題を抱える児童生徒ほど参加しないという傾向があり、個々への有効な手立てを探っていく必要がある。
- ・平均して学力や学習に取り組む姿勢に課題が残っており、家庭での学習習慣の確立とともに文化的で幅広い体験的な学習の機会を提供していかななくてはならない。
- ・さまざまな体験活動等の取り組みのなかで指導者確保の問題がある。参加者に応えるだけの充実した体験的な活動を実施していくためにも、保護者や地域の方の理解と協力を得ながら指導ボランティアの人材確保や育成を要する。
- ・課題を抱える家庭ほど地域でも孤立気味であり、生徒指導上の問題等が発生した際の有効な手立てを打つのが困難。そういった家庭とのつながりを築き、孤立を防ぎ、相談・対話できる環境づくりに努めることが重要。
- ・これまでの取り組みや地域役員との強固な連携により教育への関心も高まりつつある中、依然、保護者の教育や子育てに対する認識が低かったり、子どもより保護者の生活を優先する傾向が強かったりするなど、子どもの生育によくない影響を与えているケースがある。そこで、子育てに関する学習の機会をつくるなどして啓発や意識の向上につながる取り組みをしていく。
- ・乳・幼児期の子育てに起因していると思われる課題が成長とともに表出してきた、保護者の手に負えなくなるという現状がある。こういった繰り返しを断ち切るためにも乳幼児を抱える保護者への働きかけを強化することが大きな課題である。

③今後の方針等

(上記①および②をふまえ、事業実施後の課題や改善点など)

- ・[]を地域(小学校区も含めた)の子どもたちの遊びと学びの交流拠点と位置づけ、これまでの[]の取り組みを充実させていく。
- ・本事業の取り組みについて保護者や子どもたちへのPRを積極的に行い、だれでも気軽に来所し、参加できる雰囲気づくりに努め、家庭と[]とのつながりを築きながら、家庭との連携やサポート体制を形成していく。さらに、教育に関する情報提供といっそうの相談事業の充実を図りながら問題の深刻化を防ぎ、早期対応・解決をめざす。
- ・地域関係役員との共催事業として実施している体験交流活動を継続して実施し、地域の子ども・保護者の学びの場とするとともに、子どもを地域全体で育てていくとの意識高揚の機会とする。
- ・地域のおとな、保護者の子育てに関する学びの場として、あるいは、だれもが教育について語り合える共通の話題提供の場として講座の開催など学習機会を設け、家庭教育力の向上を目指す。











平成19年度子どもを支える人権のまちづくり促進事業実績書

施設名 

管内区域 

①困難を抱える児童生徒が多く特別な配慮を必要とする管内の現状の変化

(保護者や児童生徒の生活面・学習面等からみた管内の状況)

- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 
- ・ 


②取り組みの成果

<取り組みの現状>

【学力向上のための取り組み】…保護者の指導ボランティアやゲストティーチャーらの協力を得て

-  (小・中) 各週2回


【子どもたちの生活体験を増やし、交流を深めながら健全育成をめざす取り組み】

-  特別企画 …昔ながらの遊びを体験したり、簡単な工作・調理実習を行うなど
- 体験交流活動(リーダー研修)…地元子ども会の保護者会等、地元の子どもの健全育成をめざして組織された団体との協力体制のもと、デイキャンプ、スキー教室など開催

【問題行動や不登校をなくすための取り組み】

- 放課後の子どもたちへの遊びと学びの場の提供
- 環境整備や巡回指導(公園やよく遊ぶ場所)
- 特に配慮を必要とする児童・生徒に対する指導(個別指導、家庭訪問など)
- 地域派出所、警察との連携
- 教育関係各機関との連携

【連携を深め、地域の教育力を高めていく取り組み】

- 子ども輝き人権教育推進事業の  として事業全般の企画・運営
- 保・幼・小・中・高との日常的な連携…中学校区小・中学校への訪問(定期)
- 高校との連絡会(学期に数回、ただし問題等発生の場合は速やかに行う。)
- 民生児童委員との連携
- 地域役員との連携
 - ・学期に1~2回定期的に小・中学校と地域役員との連絡会を持ち、地域や家庭に働きかける。
 - ・子ども会保護者会との連携により、課題に即時対応し、早期解決を図る。
- 毎朝のあいさつ活動により保護者との親密を深め、気軽に相談しやすい環境を整える。